

この街に
この人あり

杉並の無形民俗文化財の 広がりと継承を目指して

井草囃子という伝統芸能を通じて、地域作りとふるさと作りをめざして活動されている、高橋正典さんにお話を伺いました。



井草囃子保存会 高橋正典さん

井草囃子とはどういうものなのでしょう

江戸時代後期、井草八幡宮の祭礼行事として、井荻・今川・上井草・善福寺・仲通り・八成の地域で継承されてきた祭り囃子で、昭和57年に



桃五小学校での練習

杉並区登録無形民俗文化財になっています。囃子の基本人数は5人で、笛（篠笛）・大太鼓2人・締め太鼓・鉦（かね）で行い、五人囃子ともいわれます。それぞれの位置は大体決まっています、大太鼓と締め太鼓は前面に座り、背後に笛と鉦は立つか座りません。また囃子に加えて獅子舞を行うこともあります。

始められたきっかけは

35年前（30歳代前半）、大先輩の吉田康夫さん（吉田テント経営者）に誘われたことがきっかけです。教わるうちに井草囃子に魅了され、現在は保存会仲通り支部の責任者・吉田さんのもとで、全てのパート演奏と共に指導者として活動しています。

活動はどんなところで

井草八幡宮の祭礼時はもちろん、白山神社ほかの神社、また区内の公共施設や商店会などの各種イベントに参加させていただいています。また日頃は、会員の研鑽、および育成活動に力を入れており以下の様な活動を行っていて、むしろこちらの方が忙しく、エネルギーを注いでいます。

●桃井第一小学校生徒週1回 約10人

- 桃井第五小学校生徒週1回 約20人
- 「吉田テント」作業場 月1回 子どもとその親

今後について

最も大事なのは後継者の育成です。各楽器には楽譜というものはありません。先生の音を耳で覚えて習うしかないし、合奏となると大変、阿吽の呼吸で合わせなければなりません。練習するうちに調和した演奏ができるようになり、お客さんと共に喜ぶ成長した姿を見たときには、本当にやりがいを感じます。また子どもたちのこの活動を通じて、世代交流による子どもへの教育効果も大いに感じるところです。



「吉田テント」作業場での親子練習

希望としては、大正時代からの太鼓の張り替えなどの楽器の修理の資金面、また後継を目指す子どもたちへの教育的支援について、もっと理解していただければと思っています。伝統文化を次世代に継承し、住んでいる私たちのふるさとへの誇りを持つみんなでありたいものです。

インタビュー後記

高橋さんの本業は手作りパン店ですが、高橋さんはこの郷土芸能の普及・継承に、息子さん夫婦とその三人のお子さん（お孫さん）、それに娘さん、まさに一家総出で取り組んでいます。本業よりもこちらの活動の方が忙しいとのこと。公演依頼やお子さんを習わせたい方、その他お問合せは、高橋正典 杉並区桃井2-2-4 KUPPELクッペル ☎090-6652-7358まで。